

マメゾウムシ

特徴と生態



- 成虫体長 … 2～5 mmほど
体色 … 黒色から赤褐色で、種類によって斑紋の入り方が様々です
- 幼虫体長 … 3～6 mmほど
体色 … 乳白色や黄白色
- 蛹 体長 … 2～5 mmほど（アズキゾウムシで2～3 mm）
体色 … 乳白色や黄白色
- 卵 体色 … 灰白色や淡黄色など
- 体は卵形または楕円形をしており、上翅背面は平らで、毛または鱗片で覆われています。複眼は前縁から深く切れ込み、C字状を成しています。また、その切れ込み部分には

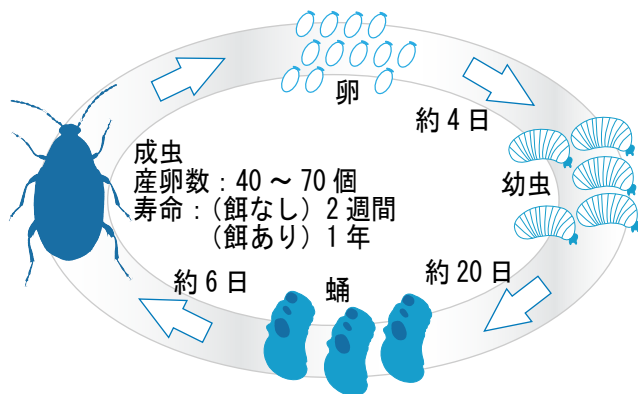
11節から成る触角が付いています。各上翅端は丸く、尾節板が露出します。後脚腿節は前・中脚よりも著しく太くなっています。卵から成虫までの期間は、温度と湿度が関係していますが、暖かい地方では、年5回以上発生します。光には比較的よく誘引されます。成虫の寿命は、餌を与えないと約2週間で、水やショ糖を摂取すると延命します。野外で花粉などを摂取すると1年以上行き続け、180日間たっても産卵能力を失われません。

マメゾウムシ類は、マメ科植物の莢（さや）か種子を食物としています。卵は豆粒の表面に産み付けられ、孵化した幼虫は豆の中にもぐりこみます。幼虫は歩くことができず、豆の中でのみ成長します。

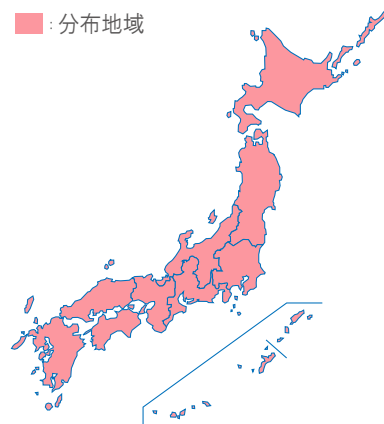
分布と発生場所

- 日本全国に分布し、マメ科植物を加害し、アズキゾウムシではアズキやササゲ、ダイズ、ソラマメ、エンドウ、ラッカセイなどで成育します。また、海外からの輸入マメ類から発見されることもあり、これまで日本にはいなかった種類も定着する危険性があります。

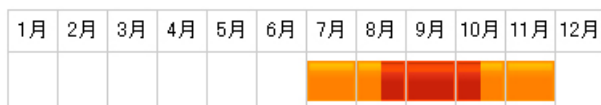
● サイクル図



● 分布図



● 発生時期



■ : 多い ■ : 少ない □ : ない

被害

- アズキやササゲ、エンドウなどの貯蔵豆を加害し、豆類を原料とするあん、もやし、甘納豆などで異物混入となることがあります。野外で幼虫が入った加害豆をそのまま収穫し、貯蔵庫に持ち込まれると、その中で繁殖し、被害が広がることがあります。屋内では、餌がある限り1年通して発生します。

駆除

- 圃場での防除は、マメゾウムシの産卵時期に殺虫剤を散布することが有効です。被害豆が見つかった場合はすぐに取り除いてください。保管の際は、侵入を防ぐために密閉容器にて保管し、繁殖を抑えるために低温で貯蔵するようにしてください。また、豆に油（大豆油やゴマ油など）を混ぜることで、産卵を予防することもできます。大量の豆の処理については、くん蒸を行うことが一般的です。さらに日常管理として、定期的に被害の有無を確認し、床に落ちている豆などは清掃によって除去するようにしましょう。